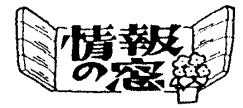


# 第6回 AHP 国際シンポジウムルポ



田地 宏一 (大阪大学)

2001年8月2日~4日、スイスのベルンにある Kursaal Bern/Hotel Allegro において、第6回 AHP 国際シンポジウム (The Sixth International Symposium on the Analytic Hierarchy Process, ISAHP 2001, 実行委員長デルマン教授 (ベルン大学)) が開かれた。この国際会議は、1988年に第1回が行われて以来、当初は3年ごと、また最近は2年ごとに開かれている AHP を中心とした国際会議であり、今回で6回目を迎えた。36の国と地域から140名あまりの参加者があり、発表論文数は78件であった。参加者数は前回 (ISAHP '99, 神戸) よりもやや減少したものの、地域数は倍以上に増えており、AHP が広く浸透してきたものと見ることができる。また、参加者の各国別の内訳を見ると、日本からは17名 (発表数14件) あり、これは、地元スイスの15名 (スタッフを除く) や、AHP 発祥の地ともいえる米国からの14名よりも多く、日本において AHP が活発に研究されている現状を反映したものと見えるだろう。

会議の1日目は、まず午前中にデルマン委員長の挨拶のあと、AHP の創始者であるピッツバーグ大サーティー教授による「Decision Making with the Analytic Network Process and its "Super-Decisions"-Software. The National Missile Defence (NMD) Example」と題された招待講演が行われた。氏はこれまで、意思決定問題を階層構造として捉える AHP からネットワーク構造として捉える ANP へと研究を進められてきたが、この講演でも、豊富な例題を通して、ANP を用いてどのように意思決定問題を分析するかについて熱心に講演されていた。

1日目の午後からは、4つのパラレルセッションで発表が行われた。今回は、テーマセッションのようなものは特に設けられていなかったが、理論面では、尺度が一对比較行列に与える影響、新たな整合性指標の提案、支配型 AHP の数学的構造、AHP とロジック



サーティー教授を囲んで

モデルとの理論的整合性、ANP による集団意思決定法、固有ベクトル法と幾何平均法との比較、など AHP のさまざまなモデルや数学的な構造について活発な討論が行われた。また、応用面では、ソフトウェア開発への適用事例や、都市計画や地域開発、教育システムや経営など、広範囲にわたる事例が紹介され、積極的な議論が行われていた。

2日目には、バンケットが開かれ、今回もサーティー教授のジョーク集が披露され、会場の雰囲気を楽しませていた。また、この席上では、アワードの表彰があり、木下、関谷、施の論文「Mathematical Properties of Dominant AHP and Concurrent Convergence」が銅賞を受賞した。しかし、アワードについては、これまでアナウンスなど全くなく、受賞された木下先生も驚かれていたようだ。

次回の第7回は、2003年7月にインドネシアのバリ島にて開催される予定である。

最後になりましたが、渡航費の一部を OR 学会創立40周年記念事業「若手研究者への海外渡航助成」より援助していただいたことに深く感謝いたします。また、写真を提供いただいた、日本大学の西澤先生にもこの場を借りてお礼申し上げます。